

経営者のための やさしい企業年金教室

2019年9月3日

31 時限目：確定拠出年金で老後不安に対処する

最近、「老後の生活資金が不足するので不安だ」と口にされる方が増えてきています。老後不安を少しでも解消するにはどうしたら良いか、考えてみたいと思います。

■なぜ「老後不安」なのか

総務省の「家計調査年報 2018年版」によると、高齢無職夫婦世帯の毎月の支出は約26万円です。それに対し、公的年金を中心に、毎月の収入は約22万円です。これは平均的な数値ですから、誰にでも当てはまる訳ではありませんが、毎月およそ4万円が不足することになります（下図参照）。

「人生100年時代」と言われていますが、もし100歳まで生きるとしたら、35年間の生活費が必要となります。

家計調査年報どおりの生活費がかかるとすると、65歳から100歳までの生活費は1億920万円となり、収入は9,240万円ですから、1,680万円の資金が不足することになります。

■老後資金不足にどう対処するか

老後資金不足への対処方法として、次の3点が考えられます。

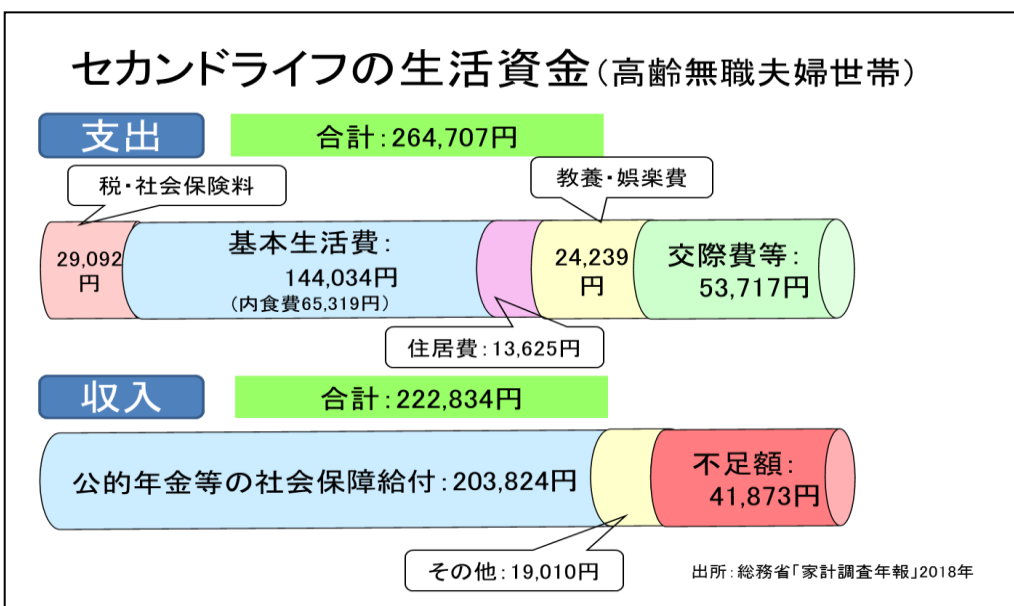
①より長く働く

既に65歳まで働ける環境が整っていますが、さらに長く70歳まで働けば大きな効果が期待できます。年収240万円でも、5年間で1,200万円となります。

②お金にも働いてもらう

現在、定期預金で積立をしても利息はほとんど付きませんが、政府・日銀は2%の

インフレを目指しています。今はまだインフレ率は高くありませんが、今後インフレとなる可能性を考えると、投資信託などを活用して利回りアップを目指すことも必要となります。



経営者のための やさしい企業年金教室

③時間を味方にする

例えば、毎月1万円を10年間積み立てて3%で運用できたとすると、元金120万円に対し運用結果は約140万円となり、1.17倍に増えます。これを20年間にすると、元金240万円に対し約328万円となり1.37倍に増えます。これは複利効果と言い、長い期間積み立てれば積み立てるほど大きな収益をもたらします。たとえ少額でも、若いうちからコツコツと積み立てることが大切になります。

■確定拠出年金を活用する

では、具体的にどのようにしたら良いのでしょうか。

上記①については決断次第ですので、②と③について検討します。結論から言えば、確定拠出年金(iDeCo=個人型確定拠出年金を含む)を活用するのが得策です。確定拠出年金には税制優遇があり、運用益が非課税であるのに加え、拠出した額が給与から所得控除されますので、大きなメリットがあります。

さらに、運用商品である投資信託が非常に多く存在する中、確定拠出年金では10~20程度の商品に絞って提示している場合が多いので、自分で一から探すよりも選択しやすくなっています。また、少額からの積立も可能です。

勤務先で確定拠出年金を導入済みであれば、

従業員が給与から拠出するマッチング拠出を始めましょう。マッチング拠出が導入されていなければiDeCoに加入できる場合があるので、勤務先に確認してみましょう。

また、勤務先に確定拠出年金が導入されていなければ、iDeCoに加入できますので検討してみましょう。

少しでも豊かな老後を迎えるには今から準備することが大切になります。

◇企業年金相談センター(NPO法人企業・団体支援日本FP協議会) 葉山 俊夫